

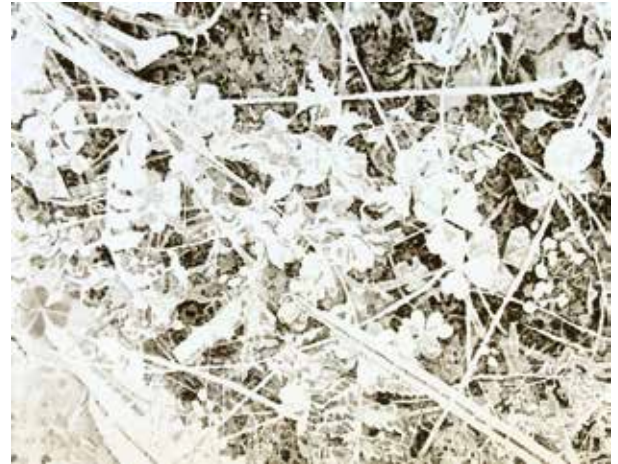
-0+

井上実・荻野僚介・鳥山秀直・山極満博による“見ること”の展示

会期 | 2015年1月31日(土)-3月1日(日)
 時間 | 11:00 ~ 19:00 ※最終日は17:00まで 月曜休廊
 会場 | gallery COEXIST-TOKYO
 〒135-0042 東京都江東区木場 3-18-17 2F

■この件に関するお問い合わせ■

〒135-0042 東京都江東区木場3-18-17 2F gallery COEXIST-TOKYO
 TEL 03-5809-9949 MAIL info@coexist-tokyo.com
 URL <http://coexist-tokyo.com/> 担当:島津(しまづ)



画家は制作中、絵の前を歩き来する。絵のまえに近寄ったかと思うと引いてみたり、彼等はいったい何をしているのだろう。当然のごとく、画家は支持体に近寄っては描き、そして一旦引いて見て、構図をはかってディテール、ニュアンスを詰めてゆく。

素朴に、わたしは絵を描く人に限らず、絵を見る人にも同様の見方、捉え方、そういった視点や観点を動かし意識する、そんな“行ったり来たり”の行程が必要だと思う。

もちろん絵の見方なんて、たくさんあってよい。けれども、いつもと同じ観点、目線で見ても、絵の奥深さや、おもしろさなんてわからないと思う。

観者と絵との関係、あるいはキャンバスに描かれた対象との距離、壁に互い違いに並ぶ絵と絵のあいだから生じる大小やズレ、対象に近づいた時のマチエールとのギャップ、そういった距離間をあえて表面に、それを操作するかのような一点、一点が配列される。

点という対象があって空間性が想起されるように、絵画空間という背景(後景)に観者をフィードバックさせることで、いつもとは異なるスケール感が観者の脳裏に拡がり、空間に奥行きや異和感が感じられる、そんな展示空間を描ければと思う。

山極満博(本展企画者)

* * *

この度 gallery COEXIST-TOKYO では、井上実(いのうえ・みのる)、荻野僚介(おぎの・りょうすけ)、鳥山秀直(からすやま・ひでただ)、山極満博(やまぎわ・みつひろ)の4人による絵画展を開催する運びとなった。

初期ルネサンスの人文主義者レオン・バッティスタ・アルベルティは絵画を「開かれた窓」と考えた。絵画は、開かれた窓を通して見た世界を描写したものだ、と。つまり、絵画は現実空間に現出した四角く仕切られた異空間と言い換える事ができよう。

本展は、絵という作られた世界を、虚の中で終わらせてしまうのではなく、空間と関わらせ、絵画の枠(キャンバスという支持体)がどう変化するかを探るといふものである。

「窓」としての絵画にあえて物質としての側面を顕在化させることにより見えてくるものは何か。4人の作家に注目いただきたい。

talk event 開催!! 2月15日(日) 15:00~

ゲスト:野口玲一氏(三菱一号館美術館 学芸員) 参加費 500円(1 drink 付き)



【写真上】井上実「ベランダの植物」2014 リトグラフ 【写真左下】荻野僚介「w364×h257×d20 or w257×h364×d20」2014 アクリル絵具、キャンバス photo:椎木静寧 【写真下中央】山極満博 sky blue and Luminous orange 2014 somewhere in nagano 【写真下右】鳥山秀直「振響II No.11」2011 シルクオーガンジー・木枠・アクリル・エナメル・顔料・ジェルメディウム・その他